

『保育環境評価スケール』 ＜金沢エクステンション＞

2011年5月22日

第64回 日本保育学会 自主シンポジウム

フリーダム

保育環境評価スケールについて

- 保育環境評価スケール①幼児版[改訳版]
テルマ ハームス+リチャードM. クリフォード+デビィ クレア
埋橋玲子[訳]
- 構成—7つの大項目と43の中項目
空間と家具(8章)／個人的な日常のケア(6章)／言語—推理
(4章)／
活動(10章)／相互関係(5章)／保育計画(4章)／保護者と保
育者(6章)
- 評価方法
各中項目ごとに7段階評価
⇒大項目評価(当該中項目スコア合計÷対象中項目スコア数)
⇒全体評価(全中項目スコア合計÷全中項目スコア数)

スケール検討事例<24. ごっこ遊び> ①

1. 1 ごっこ遊びの扮装やその他の教材や設備がない。
3. 1 家族ごつとで遊べるようなごっこ遊びの教材や家具が使える(例. まごとの小道具、人形)。
3. 2 1日に/時間は教材を使って遊べる。
3. 3 ごっこ遊びの教材は他のものとは別に収納してある
5. 1 扮装用の衣装を含め、たくさんのごっこ遊びの教材がある。
5. 2 1日の相当の時間、教材を使って遊べる。
5. 3 毎日少なくとも2種類のテーマのごっこ遊びができるような小道具がある(例. ままごと、仕事ごっこ)。
5. 4 ごっこ遊びの場がはっきりと区別され、遊ぶ空間があり、ものが系統的に収納されている。
7. 1 教材はいろいろなテーマによって入れ替えがある(例. 仕事ごっこ、空想遊び、アウトドアの小道具箱。

季節の変化に対応する衣装や小道具。年齢やテーマに応じたシンボル等)。

7. 2 小道具は多様性を示している(例. さまざまな文化を代表するような小道具、障がいをもった人が使う設備)。
7. 3 保育室以外でもごっこ遊びができ、小道具がある。
7. 4 ごっこ遊びを豊かにするような写真やお話、見学(お出かけ)がある
(例. 季節の行事や地域の文化に触れる)。
7. 5 友達とさまざまなテーマの中から、同じイメージを持ちながら遊びを作り出せるように必要に応じてアイデアを出したり、援助したりする。
7. 6 役割理解をより高めるための活動を取り入れたり、保育者が仲立ちになり、役割の違い(言葉遣いなど)を実際に知らせたりする。
7. 7 子どもが経験し気づいたことや感動したことをごっこ遊びで創造できるように、必要に応じてアイデアを出したり、援助したりする。

スケール検討事例<24. ごっこ遊び> ②

季節の変化に対応する衣装や小道具。年齢やテーマに応じたシンボル等

⇒環境への認識

7. 4 ごっこ遊びを豊かにするような写真やお話、見学(お出かけ)がある
(例. 季節の行事や地域の文化に触れる)。

⇒環境への認識

7. 5 友達とさまざまなテーマの中から、同じイメージを持ちながら遊びを作り出せるように必要に応じてアイデアを出したり、援助したりする。

⇒協同的な学び

7. 6 役割理解をより高めるための活動を取り入れたり、保育者が仲立ちになり、役割の違い(言葉遣いなど)を実際に知らせたりする。

⇒環境への認識

7. 7 子どもが経験し気づいたことや感動したことをごっこ遊びで創造できるように、必要に応じてアイデアを出したり、援助したりする。

⇒環境への認識・協同的な学び